

外来化学療法を受けられる患者様とご家族の方へ

外来での化学療法を安全にまた効果的に行うために、注意すべき副作用の症状と対処方法、その他の注意事項を記載しています。

おくすりの投与中や帰宅後に下記のような症状やいつもと違う症状が出現した場合は、お知らせ下さい。



◇ 注意すべき副作用の症状と対処方法

過敏症状

まれに、過敏反応として、顔が赤くなる・蕁麻疹が出る・心臓がドキドキする・呼吸がしにくいといった症状が現れることがあります。注射中にこのような症状が出現した場合はお知らせ下さい。また、これまでにお薬でこのようなことがあった場合も、お知らせ下さい。

骨髄抑制

- 白血球（好中球）減少により、感染しやすくなります。38℃以上の発熱の場合はお知らせ下さい。
普段から、手洗い・うがい・歯磨きをしっかり行い、感染予防に心がけて下さい。
かたい便による肛門の切れや下痢によるおしりのただれも、白血球が少ない場合は大きな感染の始まりになりますので注意して下さい。
- 血小板減少により、出血しやすくなる場合があります。皮膚に赤い斑点や紫のあざ、歯肉や鼻からの出血、血尿、血便、脳出血を疑う激しい頭痛などが出現した場合はお知らせ下さい。
- 赤血球減少により貧血となり、めまいやふらつき、息苦しいなどの症状が現れます。症状を感じたら安静を心掛けて無理せずゆっくり動きましょう。ひどい疲労感や息切れを感じたらお知らせ下さい。

吐き気・嘔吐・食欲不振

点滴直後から数日の間に起こることがあります。吐き気を起こしやすい薬を投与する場合は、あらかじめ吐き気止め薬（グラニセトロン®）を使用します。体をしめつける衣服は避けて、リラックスしましょう。

1日に3回以上嘔吐し、吐き気がおさまっても食事ができない場合などはお知らせ下さい。また、吐き気のある時は、脂っこい食物、蛋白質の多いものを控えて、でんぷん質のもの（炭水化物）、野菜類を中心にして下さい。もっと食欲の落ちているときは、イオン飲料、砂糖水、麦茶、ほうじ茶など、水分だけは十分にとるようにして下さい。

便秘

便秘がひどくなると腸閉塞を起こす危険がありますので注意が必要です。場合によっては、便秘薬で排便コントロールをおこないます。普段から十分な水分と繊維質の多い食事をするように心掛けましょう。

腹部膨満感があり、排便や排ガスがなく、嘔吐したり食事が食べられない場合などはお知らせ下さい。

下痢

頻回の激しい下痢や差し込むような腹痛、便の性状がだんだん悪くなる場合などはお知らせ下さい。下痢がひどくなると脱水症状を起こすことがありますので、出来る限り、水分補給をおこなうようにして下さい。

口内炎

うがいなどで口の中を清潔に保ってください。口内炎がひどい場合は味のうすい流動物（おかゆ、スープ、牛乳など）を中心に摂ると良いでしょう。症状がひどい場合はお知らせ下さい。

腹痛

重篤な腸炎やロイナーゼによる急性膵炎の可能性も考えられますので、激しい腹痛や上腹部痛、背部痛、嘔吐などがある場合はお知らせ下さい。

肝機能障害

体がすごくだるくなったり、白目や皮膚が黄色くなるなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

腎機能障害

尿量が減少したり、尿が赤くなったり、むくみなどが現れた場合はお知らせ下さい。

心機能障害

動悸や息切れ、胸の痛みなどが現れた場合はお知らせ下さい。

肺障害

発熱の持続、咳、体動時の息切れなどが現れた場合はお知らせ下さい。

白質脳症

めまい、ふらつき、口のもつれ、もの忘れ、手足のしびれ、力が入らないなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

副腎皮質ステロイドホルモン（プレドニゾン）の副作用

胃十二指腸潰瘍、感染症、高血圧、高血糖、血栓症、食欲増進、満月様顔貌、むくみ、精神変調、不眠、成長障害、骨粗鬆症、白内障・緑内障、多毛、にきびなど

- ◇ お薬の量は、骨髄抑制や肝機能障害、腎機能障害などの程度に応じて変更されることがあります。特にのみ薬はその都度、医師の指示に従って間違わないようにお飲み下さい。
- ◇ 外来化学療法期間中に、他院で薬をもらう場合は、化学療法中であることを伝えて下さい。また、当院でも他院でもらった薬を主治医にお見せ下さい。
- ◇ 予防接種を受ける場合は、必ず主治医に相談してください。
- ◇ 自宅での状態を記録し、診察時に医師に伝えるようにして下さい。
- ◇ 上記に示す副作用以外の副作用が現れる場合もありますので、何か気になることや変わったことがありましたらお知らせ下さい。